

第3期 システム計画研究グループ活動報告

システム計画研究グループリーダー 福本二也（㈱建設技術研究所）

サブリーダー 西川光善（㈱環境技研コンサルタント）

システム計画研究グループは「地域に受け入れられる最終処分場」のコンセプト構築をテーマにして、第1次LS研、第2次LS研と研究活動を進めてきた。第1次～第2次の研究活動の中で、最終処分場計画論、リスク管理、情報管理、地域還元等に関する基本的なコンセプトの構築ができたと考えている。しかし、最終処分場を取り巻く現状をみると、埋立廃棄物、環境保全に対する住民の不信感から立地選定がはかどらない等、住民との合意形成がなお困難な状況にある。

第3次LS研の研究活動では、「地域に受け入れられる」ために必要な未解決の課題として、3テーマを掲げて第3次研究活動に望んだ。

すなわち、不適正処分場の対策に関する研究、環境リスクを考慮した適地選定手法の研究、地域還元、跡地利用技術研究である。

地域住民にとって、最も大きな問題として、最終処分場がもつ環境リスクの克服があげられる。埋立地で発生する浸出水は公共水域や地下水汚染につながる可能性がある。住民の最終処分場に対する立地反対の最も大きな理由は、この浸出水による環境汚染であることは、第1次LS研のアンケート調査によって明らかになっている。この状態を克服する一つの手段が、適切な立地の選定である。第3次LS研では「環境リスクを考慮した適地選定手法」を掲げ、万が一浸出水が漏れたとしても、汚染が拡散しないうちに拡散防止対応が取れることを立地選定の重要な視点として考え、研究を行った。

また、最終処分場の広大な敷地を地域の資産として活用するために、最終処分場はどのような形態をとるべきなのか？という視点から「地域還元、跡地利用技術の研究」を行った。単に最終処分場の跡地だけではなく、これを取り巻く公共施設などと一体利用しながら、時間的に、空間的に段階利用を図っていくような利用方法を提案した。

一方、1999年7月に遮水工と浸出水処理施設を設置していない不適正処分場が公表されてから、不適正処分場の対策に関する研究が緊急かつ重要なテーマとして取り上げた。不適正処分場と一口にいても、環境に与える影響と必要な対策は異なる。これらを整理し、対策のための調査方法、対策計画について研究を行った。（具体的な対策設計、施工方法は施工研究グループで行っている。）

以上の3テーマが第3次LS研のシステム計画研究グループで行った3本柱である。以下、それぞれについて、研究成果の概要を述べる。

各分科会の主査は以下の通りである。

不適正処分場の対策に関する研究	主査：下村由次郎（パシフィックコンサルタンツ㈱）
環境リスクを考慮した適地選定手法の研究	主査：中石一弘（個人）
地域還元、跡地利用技術の研究	主査：石橋 稔（佐藤工業㈱）